



「南城市历史文化基本构想」 中間報告

沖繩県南城市

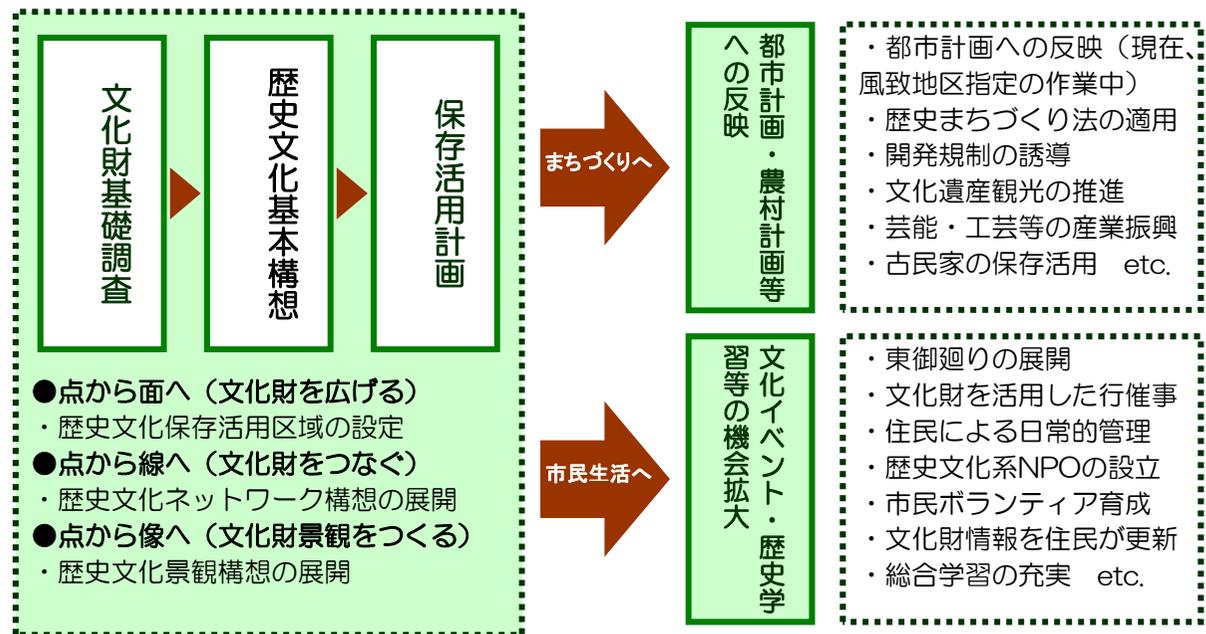
1. 歴史文化構想の最終イメージ(案)

- 「琉球(民族)発祥の地・南城」をコンセプトに据え、今後の文化財行政(文化財をまもる・つなぐ・いかす)にストーリー性を与える

① 合併後の都市計画・景観計画と連携し、文化財全般の保存・活用のマスタープランを作成し、開発行為等を誘導

② 地域単位で文化遺産とのつながりを再構築する仕掛けの構築

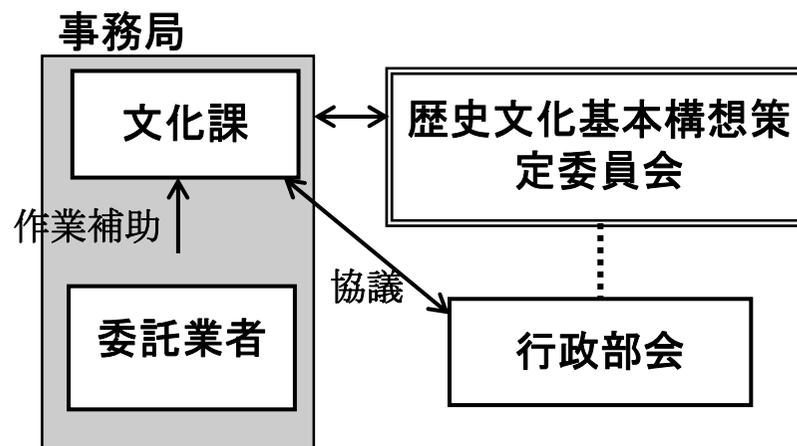
③ 文化財の基礎データの充実により、管理の改善、観光との連携、情報提供を促進



2. 平成20年度の事業内容

①体制

- 専門的な助言・指導を行う専門委員会、庁内で基本構想を検討する行政部会を設置



- 行政部会は、本事業に関係する6課(文化課、都市建設課、まちづくり課、田園整備課、観光文化振興課、産業振興課)で構成

②調査の進め方と内容

- 文化財基礎調査
→ ㊦指定・未指定文化財のリスト化・マップ化、㊩現地調査、㊵文化財カルテの作成、㊥開発行為のケーススタディ等が終了または実施中
- 南城市の歴史文化特性を整理し、構想のコンセプトを設定
- シンポジウム・住民説明会の開催を通じ、啓発と関心を喚起

3. 南城市の取り組みの特徴

①これまでの取り組みとの違い

個別の文化財の調査・整備を中心とした文化財保護行政



「これからの市のあり方において歴史文化遺産をどう活かすか」という基本的なビジョンづくり



関係部局との共通認識構築

②苦慮した点

地域住民を巻き込んだ体制づくり(多忙さ・世代間事情)



地域行事等との連動



時間に余裕ある世代から波及



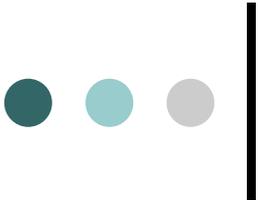
商工会、NPO等との協働

③委員からの指摘事項

関連部局との共通認識の構築



市職員の誰もが説明できる構想になることを目指す



4. 人々にとっての文化財の意義

①これまでの課題

- 合併市町村であるため、共通の文化アイデンティティが不足
- 戦前の教育は地域性を否定したため、住民（お年寄り）が地域の文化財に自信が持てない事情もある

②人々の文化財とのつながり（絆）

- 人生のときどきでの文化財との思い出（記憶の絆）
- 祖先とのつながりを確認するための場所（系譜の絆）
- 拝みや祈りを通して護られるという意識（精神の絆）
- 行事を通してコミュニティのつながりを深める（コミュニティの絆）

③今後の対応方向性

- 市だけでなく、「琉球かいびゃくの地」という誇りの醸成
- WS等を通して発見や推理、交流や継承によって新たな絆を創造